

## 知事と区市町村長との意見交換（東村山市）

令和1年10月7日（月）

17時30分～17時50分

○行政部長 それでは早速でございますが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 今日は御多忙中のところ、都庁までようこそお越しくださいました。先日、多摩全生園の創立110周年ということで、御相伴させていただきました。

今日はただいま年末を目途に長期ビジョンの策定に向かって進めておりますので、東村山の今後の方針、ビジョン等を、聞かせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは渡部市長、お願いいたします。

○東村山市長 改めまして、こんにちは。本日はこのような機会を設けていただきましたこと、感謝を申し上げたいと思います。

また、今知事からお話ありましたが、過日お忙しいところ、当市にございます国立療養所多摩全生園の110周年記念の集いに、お忙しいところ知事にも御出席をいただきまして、誠にありがとうございました。後ほど、多摩全生園の関係についても、今日触れさせていただく予定にいたしております。どうぞよろしくお願い致します。

また、事前に都の方に提出したテーマの順番を入れ替えさせていただいて、先に連続立体交差事業等の推進及び当市のまちづくり関連事業についての支援についてご説明を申し上げたいというふうに思います。

現在、東村山市では東村山駅周辺の連続立体交差事業が、これは都が事業主体なので、私の方から知事に御説明を申し上げるのもおこがましい話なんですけど、地元の事業ということで御理解をいただいて、またぜひ我々としても非常に注力をして進めさせていただいている事業ということで、御理解いただければというふうに思っております。

現在、東村山駅周辺を中心としながら、この赤い部分がちょうど連続立体交差事業を行う予定区間で、大体、直線距離で言うと2.5キロぐらいです。線としては西武新宿線、それから国分寺線、それから西武園線と、3線を高架化するというので、総延長約4.5キロの距離ということで、多摩地域における幹線道路であります府中街道、以下5つの踏切を除却をするものでございます。

これまで東村山市は西武新宿線等の鉄道によりまして、まちの中が大きく東西に分断をされ、なかなか一体的なまちづくりが進められなかったことがございまして、長年に渡って東京都に要望させていただいて、御採択をいただいて、今連続立体交差事業が進められているという状況でございます。西武新宿線では中野区さんに次いで2か所目、多摩地域では初めての事業ということで、私どもとしても非常に期待をして事業を進めさせていただいているところでございます。

連続立体交差事業に合わせまして、現在、市では駅の周辺のまちづくりを進めさせてい

ただきたいと考えております。特に東口、これが写真ですが、もう東口広場が出来上がって50年近く経過して、かなり老朽化が進んでおりますし、御覧いただくとおかしなロータリーだと思われると思うんです。実はロータリーの中に横断歩道があって、ロータリーにも関わらず車がぐるっとなかなか回るのに苦勞する、歩行者と車両が輻湊するというようなことで、交通安全上の課題もございます。

こうしたことから、市としては連続立体交差事業に合わせて、東村山駅の特に東口については再整備をさせていただいて、歩行者中心の誰でも利用しやすい駅前広場、また地域分断解消のための新たな東西動線、この駅の西口と東口を繋ぐ新たな交通動線、それから沿線の土地利用と調和した高架下の活用。この新たに生み出される高架下を活用して、まちの活性化に繋げていきたい。

そして市街地再開発事業等も視野に入れた、駅周辺の高度利用を図っていきたいというふうに考えているところでございます。

その中で特に駅周辺のまちづくりについては、やはり東西を繋ぐ自由通路はできるだけ広くとって、できれば中でイベント等も、今こういう形で屋外で行っておりますが、こういったものも天気に左右されることなくこちらでイベントができるような、そうした東西通路、自由通路をつくっていききたいというふうに考えております。今西武鉄道とも随分いろいろ協議をしてるところでございます。

ぜひ都におかれましては、引き続き連続立体交差事業の推進と共に、市が行おうとしております、これら駅周辺のまちづくり、特に東西の動線の確保等について、御支援等を賜ればありがたいな、そのように考えているところでございます。

ちょっと時間が大分経過してしまっておりますのでかいつまんでですが、国立療養所多磨全生園については前にも御説明を申し上げましたが、今年で創立110周年。また、高齢化により入所者の減少、それから将来構想の取組が課題になっております。

現在、入所者自治会と国と東村山市3者で将来構想について、昨年から定期的に会議を持ちまして、協議を開始しております。多磨全生園は元々当時東京府の施設として出来たものでもありますので、この広大な約35万平米の敷地、そしてハンセン病の歴史が刻まれた場所をどのようにしていくのかという協議の場に、ぜひ東京都にも加わっていただいて、国、東京都、そして地元であります私も東村山市、そして入所者自治会と将来構想をこれから詰めていければなど、そのように考えております。ぜひ御協力をいただきたいと思います。

最後になりますが、よく知事御案内のとおり、来年のオリンピックでは聖火リレーのセレブレーション、多磨全生園で行っていただくことにお決めをいただいたということで、改めて感謝を申し上げたいと思っておりますが、多磨全生園でこのような聖火リレーのセレブレーションを行うということは、国内外に人権の大切さ、差別のない共生社会の実現を訴える絶好の機会でもございます。ぜひまた東京都とも十分連携をしながら、実りあるセレブレーションを行いたいと考えておりますので、ぜひ御支援と共にできれば知事にもセレブレーションへ御出席を賜ればなど、そのように思っております。私からは以上で

ございます。よろしくお願ひいたします。

○知事 何点か課題的な御要望等も加えて、お話をいただきました。スライドの右下にそれぞれ SDGs のマークがテーマごとに付いているということで、非常に SDGs の取組、それぞれの市で工夫していただいていることは、すなわち東京にとりましても持続可能な発展を遂げるという意味で、共通の方向性だと、このように認識しております。

まず東村山駅の連続立体交差事業ですが、ちょうど駅施設の建設等、工事が本格化していると伺っておりますので、これから事業の最盛期かと存じます。この立体交差事業で生み出される高架下等、貴重な空間ですので、これらの空間を活用してまちづくり、そして地域の魅力を高める取組を進めていくことはいい考えだと思います。

また、東村山市の方と西武鉄道と連携されまして、事業を着実に推進すると共に、市のまちづくり関連事業に対しても、都として支援もしていく考えであります。

それから多磨全生園は、先日も伺いました。一昨年伺った時は、知事としては 57 年ぶりという話で伺いましたが、これまでの様々な歴史を考えますと 110 周年、そしてまた先日、厚労大臣が謝罪をされた等々、裁判もございましたし、そのような中で都としてハンセン病患者や回復者、それから御家族に対する差別、偏見等がなくなるように、市と連携させていただいて、普及啓発も進めていきたいと思ひます。

それからセレブレーション会場にあの場になるということは、今申し上げたこと全て含む形で、これまでのいろいろな歴史を超えて前へ進んでいくんだという、そのような一つの象徴になるのではないかなというふうに思っております。

オリンピックの理念がそもそも差別や偏見が解消された共生社会の実現ということでございますので、共に歩んでいきたいと考えております。7 月 14 日がセレブレーション、次の日が私の誕生日でございますので、そちらの方のセレブレーションもどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○行政部長 市長、いかがでしょうか。

○東村山市長 連続立体交差事業の方について申し上げますと、高架下で、公共事業として、全体の約 15%ほどは市の方で活用が可能ということなんですけど、どの場所をどういうふうに活用させていただくかは、これから鉄道事業者さんとかなりシビアな折衝交渉もしなければならぬところでございます。そこについてもぜひ都の方からもいろいろアドバイスや御支援をいただいて、我々としては単に鉄道が高架になるというだけではなくて、やはりその下に生み出される新たな公共空間をうまく活用して人口減少、超高齢社会の中で東村山市が生き残れる、まちの活性化にぜひ繋がるような開発を進めさせていただきたいと考えております。何卒御支援をいただければと、そのように思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○行政部長 まだお時間ございますが、もしよろしかったらどうぞ。

○東村山市長 あとは先日も知事にお出まじいいただいて、短期間のうちに二度も現職の都知事に多磨全生園にお越しいただいたということで、入所者の皆さんも大変喜んでおられ、なおかつお話を聞くと、1964 年のオリンピックの時はまだやはり差別、偏見が厳しい時代

で、なかなか入所者の皆さんも外に出歩くのが、それほど今のように自由という状況ではなかったそうで、ほとんど東京でオリンピックをやっておられても、自分達には関係ない世界だったと。

それが今回、セレブレーションでリレーがあって、聖火リレーが自分達の全生園の中で行われるということで、非常に皆様喜んでおられます。来年 2020 年までは皆元気でがんばろうとおっしゃっていただいていますので、どういう中身になるか、これは組織委員会、東京都と十分、練り上げなければなりません、先ほども繰り返になりますけれども、そうした 110 年の歴史、それからお亡くなりになった 4,000 余の方々や、入所されている方、今もう 150 人ほどになりましたが、そうした方々の思いに対してセレブレーションを、当市の場合はそれほど派手なことはできないとは思いますが、記憶に残るようなセレブレーションにできればと思っておりますので、ぜひまた東京都を挙げて御支援をいただければと、そのように考えております。

○行政部長 よろしいでしょうか。では最後に一言、お願いいたします。

○知事 今日もありがとうございました。また全生園に、今お住まいの方の平均年齢が 84 歳か 86 歳かと伺っておりました。でも理事長も、平沢さんもお元気でなによりです。どうぞまた皆さんによろしくお伝えください。今日はありがとうございました。

○行政部長 では意見交換を終わらせていただきます。ありがとうございました。